慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

令和３年度三四会賞受賞者

１．北里賞

中本　伸宏（内科学（消化器）教室　77回）
「肝臓と消化管を結ぶ腸肝相関を介した肝臓学の統合的理解」

２．北島賞

尾原　秀明（外科学（一般・消化器）教室　72回）
「外科術後感染の低減を目指した臨床的検討～多職種チームによる介入の成果～」

３．三四会奨励賞

Ⅰ　臨床医学

１）**森口　　翔**（精神神経科学教室　86回）
「Excess tau PET ligand retention in elderly patients with major depressive disorder」

２）**本郷　　周**（泌尿器科学教室　88回）
「抗癌剤耐性前立腺癌バイオマーカー同定ならびに新規治療戦略としての耐性克服薬の導出」

３）**南宮　湖**（感染症学教室　86回）
「Genome-wide association study in patients with pulmonary Mycobacterium avium complex disease」

Ⅱ　基礎医学

１）**戸ヶ崎　和博**（内科学（消化器）教室　93回）
「Wnt Signaling Shapes the Histologic Variation in Diffuse Gastric Cancer」

２）**富田　洋平**（眼科学教室　85相当）
「Free fatty acid receptor 4 activation protects against choroidal neovascularization in mice」

３）**大伴　直央**（整形外科学教室　90回）
「Genome-wide association study identifies 14 previously unreported susceptibility loci for adolescent idiopathic scoliosis in Japanese」

４）**楠本　　大**（循環器内科／予防医療センター　86回）
「深層学習による老化スコアリングシステムを用いた抗血管老化薬探索」

５）**菱川　彰人**（内科学（腎臓内分泌代謝）教室　91回）
「Decreased KAT5 Expression Impairs DNA Repair and Induces Altered DNA Methylation in Kidney Podocytes」

令和３年度

慶應義塾大学医学部三四会定例評議員会

～評議員会後に三四会賞表彰式も実施～

令和３年６月12日（土）、信濃町キャンパス東校舎講堂で令和３年度三四会定例評議員会が開催された。今回もＣＯＶＩＤ-19が拡大している現状からＷＥＢ開催となった。評議員総数は２３０名で、委任状提出１４４名、当日の参加者は61名でした。

長倉和彦議長（55回）による開会宣言に続き、令和２年度物故会員85名への黙祷が捧げられた。

審議に先立ち、武田純三三四会長より挨拶があった。５月の塾長交代に伴って、慶應義塾の常任理事として三四会から天谷雅行君（64回）、北川雄光君（65回）、山内慶太君（70回）が選出された。昨年の三四会百年記念式典は中止となったが、今年は慶應義塾大学病院、慶應医学会と三者合同百年記念式をＷＥＢ開催する予定である。令和２年度事業内容の説明ののち、今年度事業として名簿作成を機に個人情報取扱規定を制定し、ＩＣＴ強化ＷＧの活動を予定していることが説明された。また、三四会員の様々な協力に対する謝意が述べられた。

第１号議案である令和２年度事業報告が古梶清和副会長（63回）より行われた。会員数は９１０６名（他大学出身者２９５９名を含む）であった。三四会百年記念事業で、式典は中止したが、医学部新聞の縮刷版、百年史、記念品の作成が行われた。ＣＯＶＩＤ-19関連としては、ドンネルプロジェクトに２００万円の寄付を行い、困窮学生への奨学金３００万円を支給した。ＣＯＶＩＤ-19の影響で支部活動に支障が出ていることを受けて、支部長アンケート調査を施行した。謝恩会は開催されなかったが、卒業記念品として特製モバイルバッテリーを贈呈したと報告された。

第２号議案である令和元年度会計決算報告が渡辺真純副会長（64回）より行われた。収入は例年と大きな差は無いが、支払い方法の多様化により会費収入は増加した。支出としては新型コロナウイルスの影響で、連合三田会協力費、会議費等が減少し、結果として一般会計は約１０００万円の黒字となった。特別会計（赤倉山荘、三四会館建設、医学部援助金）については、大きな変動はなかったと報告された。

第３号議案である財産目録、会計事務処理並びに財産管理監査報告が松本純夫監事（52回）により行われた。会計及び会計以外の業務が、法令および定款に従い適正に行われたと監査報告された。

第１～３号議案について審議が行われた。三四会館建設計画に関する質問があり、武田純三会長から、具体的な計画は決まっていないが、今後も継続して検討すると回答があった。他に疑義はなく、議案は承認された。

第４号議案である令和３年度事業計画（案）が島﨑美奈子副会長（61回）より提案された。ＣＯＶＩＤ-19の影響が予測されるが、事業内容は例年通りの事業に加え、合同百年記念式事業について説明された。

第５号議案である令和３年度会計予算（案）が渡辺真純副会長（64回）より提案された。内容は例年通りであるが、三四会百年記念事業費５００万円を計上しており、百年式の動画作成、記念品関連費用等であることが説明された。また、名簿発行年であることから支出は増加するが、百年式典が開催できるかどうか未定であり、その結果によって大きく変わる可能性があることが説明された。

第４～５号議案に関する審議が行われた。評議員会のＷＥＢ開催にあたって、事前に賛否を問うのであれば、配布する資料において丁寧な説明が必要だろうとの意見があった。武田会長より、ＷＥＢ開催形式の整備については、今後のＩＣＴ強化の中で対応を検討していくと回答された。また、学生の支援等に関する事業計画と予算の整合性について質問があった。渡辺真純副会長（64回）より、令和２年度は学生からの働きかけがなかったが、依頼があれば協力できるように令和３年度も予算を確保してあると回答された。他に疑義はなく、事業計画及び会計予算は原案通り承認された。

第６号議案である三四会個人情報保護規定の制定について宮川義隆理事（70回）より提案された。会員名簿の発行準備を進めているが、変更点として、個人情報保護規定に従って個人情報の管理を行うこととしたい。個人情報保護規定は今回の名簿作成から適用する予定である。表紙は、新しいものに変更されることが報告された。

第６号議案に関する質疑応答が行われた。遺族からの希望があっても、物故者の氏名と卒年だけは名簿に残して欲しいという要望があった。宮川理事より、物故者の氏名は名簿に残す方針であることが回答された。他に質疑はなく、個人情報保護規定は承認された。

第７号議案として、三四会入会者について島崎美奈子副会長（60回）より提案があった。慶應義塾大学医学部および病院での勤務経験のない医師が入会を希望されている。会則に従って、入会には理事会および評議員会での承認が必要であるが、理事会ではすでに入会が承認されていると報告された。

第７号議案に関する質疑応答が行われ、質疑はなく、入会が承認された。

審議終了後、天谷雅行医学部長（64回）より、新型コロナワクチン職域接種への協力、ドンネルプロジェクト、困窮学生への奨学金など、三四会からの医学部への支援に対する謝意が述べられた。新病院棟建設、ＣＯＶＩＤ-19流行時には、長谷山彰前塾長、塾執行部の皆様に物心両面でご支援いただいた。これからは伊藤公平新塾長のもと、研究担当の常任理事として、北川、山内常任理事とともに慶應義塾のために尽くしていきたいとの抱負が述べられた。

引き続いて、北川雄光常任理事・前病院長（65回）より挨拶があった。医療系全般を担当する常任理事に就任したこと、ワクチンの職域接種について説明されるとともに、三四会員の協力に対する謝意が述べられた。慶應義塾大学病院の医師・看護師・薬剤師を中心として、医師では関連病院と三四会、看護師と薬剤師も各同窓会組織が協力する予定で、事務を含めて慶應義塾全体をあげての事業となっていることが紹介された。

星野健副議長（63回）による閉会の挨拶の後、評議員会は閉会となった。

その後、三四会賞、三四会奨励賞の表彰式が執り行われ、散会となった。

２年続けてのＷＥＢ開催でしたが、皆様のご協力のお陰で無事評議員会を行うことができました。来年は一同に会して開催できるよう願っています。

（評議員会議長　長倉和彦　55回）

【三四会奨励賞受賞者】左から、島﨑副会長、小梶副会長、武田会長、楠本君、大伴君、菱川君、南宮君、森口君、本郷君、天谷医学部長、渡辺副会長

【三四会賞受賞者】
左から、武田会長、尾原君、中本君、天谷医学部長

全塾ワクチン職域接種が順調にスタート

伊藤新塾長の義塾執行部の発足とほぼ同時に、政府から企業や大学を対象とした新型コロナウイルスワクチン職域接種についての発表がありました。接種券が発行されていない若者も含めてワクチン接種を推進するための施策であり、しっかりとした名簿に基づいて接種歴を確認できる団体に対して、申請に基づいてモデルナ社製のワクチンが供給されることになりました。伊藤塾長の「コロナ禍で奪われた塾生のキャンパスライフを奪還したい」という強い思いと決断のもと我々は慶應義塾においても職域接種開始を申請することを即決しました。もちろんワクチン接種は個人の希望に基づく任意のものであり、接種だけで全てを解決できるわけではありませんが、秋学期、さらには2022年度に向けて大学の教学機能を取り戻す大きな一歩になると考えました。

とは言っても、全塾の通信教育も含めた学生、非常勤も含めた教職員とその同居ご家族、各キャンパス関係者、その他の社会的貢献枠も含めるとおよそ5万人が対象となることが判明しました。コロナ患者の診療、新宿区の住民接種に加えてこれから始まる東京五輪におけるメインスタジアムを中心とした救急医療を担う慶應義塾大学病院スタッフだけでこれを全て賄うのは到底不可能であり、私自身も途方に暮れました。しかし、医学部基礎研究者、三四会、関連病院、看護医療学部、紅梅会、薬学部、ＫＰ会という慶應関連医療従事者の皆様がすぐさま支援の手を差し伸べてくださいました。また、三田キャンパスをはじめとする事務部門の皆様が瞬く間に動いてくださいました。まさに慶應社中一丸となった支援体制であっという間に接種体制が構築されました。

会場は信濃町や芝共立キャンパスに近く、関連病院の一つである済生会中央病院が万が一の時の救急医療をお引き受けくださったことで三田南校舎5階を使用することになりました。信濃町で4500名の医療者接種を経験した病院感染制御部の皆様、キャンパスの特徴を熟知した管財部など三田事務部門の皆様が、この会場の理想的なレイアウトを作ってくださいました。総務部が関係省庁と連携し、学生部、ＩＴＣ本部があっという間に素晴らしい予約システムを作ってくれました。6月7日には「全塾5万人職域接種」を発表し、伊藤塾長が全塾に向けたビデオメッセージを発信しました。そして、職域接種解禁初日の6月21日より、全国17大学の一つとしての職域接種を開始することができました。午前中は薬剤師6名、看護師5名が集中的にワクチンのシリンジ充填を行い、午後から看護師17～22名、医師11名体制で1日1500～2000名の接種を安全かつ円滑に行なっています。経験豊富なリーダー医師、看護師が体調不良者の対応にも万全を期す安全な体制を実現することができました。医学部生のアンバサダーが、同じ世代の学生諸君の不安に答える接種体験談やＱ＆Ａを作成してくれたのも大変ありがたいことでした。現時点で学生の接種希望者は70%を超えています。一方で、様々な事情で接種を希望しない人たちに同調圧力がかからないよう「ワクチンハラスメント防止」のメッセージも発信しながら、「希望者には、迅速かつ安全な接種を行う」ことを目指して進めています。

現在、海外留学を予定し留学先からワクチン接種を要請されている他大学学生、臨地実習を控えた慶應以外の医療系学生、地元港区の学校法人の教職員や学生など社会への貢献を行いながら順調に運営しております。

一方、ワクチン供給の不足により、各大学、各企業で予定されていた職域接種の多くが開始の見通しが立っていない中で、現時点（7月1日）では慶應義塾における職域接種は順調に進んでいます。他大学や地域の要請にも可能な限りお応えしながら、一日も早く塾生のキャンパスライフを取り戻し、社会全体のコロナ終息に向けて貢献して参ります。ご尽力頂いている全ての皆様にあらためまして感謝の気持ちを込めて経過報告をさせていただきます。

（常任理事　北川雄光　65回）

菅沼連合三田会会長から接種を受ける伊藤塾長

武田会長も接種ボランティアに参加

三田キャンパスでのワクチン集団接種支援へのお礼

このたびの職域接種にあたって接種支援をお願いしましたところ、多数の先生方にご登録いただきました。ご協力に、厚くお礼申し上げます。なお、登録が100名を超しましたので、締切らせていただきました。

記事にもある通り、接種は6月21日より開始されており、塾長からも感謝のお言葉をいただきました。

三四会会長　武田純三

速報　次期医学部長に金井隆典教授（内67回）が就任

天谷雅行医学部長が常任理事に就任したことを受けて、令和３年７月５日に臨時教授会が開催され、次期医学部長選挙にて内科学（消化器）教室の金井隆典君が選任された。新医学部長の任期は、令和３年８月１日から令和５年９月30日までとなる。

慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100年合同記念式典・シンポジウム

日　　時	2021年9月11日（土）午後2：00～6：20
形　　式	Web配信（※参加費無料・事前登録制）
対 象 者	慶應義塾教職員、三四会員、慶應医学会会員、塾生、近隣医師会会員、その他慶應義塾関係者
視聴方法	申込期限までに、QRコードもしくは以下リンクより事前申し込み登録をお願いします。申込期間終了後、事務局より視聴方法についてご連絡します。 https://forms.gle/K3tz9exj6HStFoZRA
申込期限	2021年9月3日（金）午後5：00
式　　典	午後2：00～2：40
シンポジウム	午後3：00～6：20

1部
座　　長　池田 康夫（慶應義塾大学名誉教授）
　　戸山 芳昭（慶應義塾大学名誉教授）
シンポジスト　佐々木 淳一（慶應義塾大学医学部救急医学教室教授）
　　陣崎 雅弘（慶應義塾大学医学部放射線科学教室（診断）教授）
　　門川 俊明（慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター教授）

2部
座　　長　猿田 享男（慶應義塾大学名誉教授）
　　末松 誠（慶應義塾大学医学部医化学教室教授）
　　竹内 勤（慶應義塾大学名誉教授）
シンポジスト　岡野 栄之（慶應義塾大学医学部生理学教室教授）
　　金子 祐子（慶應義塾大学医学部内科学教室（リウマチ・膠原病）教授）
　　佐谷 秀行
　　（慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門教授）

3部
座　　長　相川 直樹（慶應義塾大学名誉教授）
　　村井 勝（慶應義塾大学名誉教授）
シンポジスト　向井 千秋（東京理科大学特任副学長）
　　山内 慶太（慶應義塾常任理事）

（五十音順）

※講演の順番は変更となる可能性がございます。
※祝花につきましては、お気遣いに感謝しつつも謹んで辞退させていただきます。

お問い合わせ　慶應義塾大学病院総務課
Tel：03-5363-3611
E-mail：med-somu-3@adst.keio.ac.jp

慶應義塾大学病院 各種お問い合わせ先

・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）

三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

医療機関用
TEL 03-3353-1257　　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「お問い合わせ一覧」→「医療機関の方へ」→WEB申し込み：初診外来予約フォーム（24時間申込）
→医療機関からの初診予約申込フォーム
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

鑑賞知来

東京都済生会中央病院にも、新型コロナ感染症専用病棟がある。38億年前に地球で生命が誕生したとき、火星は地球と同様の状態であったため、火星にも当時生命がいたのではないかと予想できる。そのためにＮＡＳＡは火星に探査機を送り込んでいる。

あらためて言うまでもなく、約20万年前に誕生した我々ホモ・サピエンスの歴史は感染症との戦いである。人類の平均寿命は長らく、せいぜい30歳程度であった。世界の地域によって差はあるものの、１８００年代後半から人類の平均寿命は飛躍的に延長した。

日本人女性の平均寿命は87歳、男性は81歳と世界トップレベルである。日本の食事と医療体制がその理由に挙げられる。ホモ・サピエンス誕生初期の個体数は5万人程度だったが、今や世界人口は78億人である。この間に、天然痘、ペスト、新型インフルエンザ、新興感染症、再興感染症、さまざまな感染症を経験してきたが、現在人類は地球を支配している。感染症に打ち勝ってきたと言ってよいだろう。

イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリは、人類に認知革命が起き、貨幣、国、宗教などの虚構を信じることで現在の繁栄と衰退があると説く。つまり、現在人類は、清浄な水と食料の確保、エネルギーの社会への安定供給、地球環境保全、国際間のグローバルセキュリティなど様々な問題を抱えている。そこにこの新型コロナ禍だが、感染症対策はこれらの問題と無関係ではなく、むしろ密接に関係しており、あわせて考える必要がある。

これらの問題の解決には科学と政治の良好な関係が不可欠であると痛感する。オリンピック・パラリンピック開催を控えた東京の総合病院の無床精神科で働く私たちは、微力ながら新型コロナウイルス感染症専用病棟でのリエゾン、有熱者トリアージ外来とワクチン接種の手伝いなどを通して引き続き貢献できていると信じたい。

（東京都済生会中央病院　精神科医長　仁王進太郎　79相当）